

令和6年度事業報告

1 概況

令和6年度は、第5期の指定管理期間のスタートの年にあたることから、第5期指定管理に係る（公財）熊本県立劇場中期運営方針の下、第5期事業計画に沿って、今後5年間に向けたテイクオフのための着実な業務運営に努めました。

施設管理事業では、利用率はコンサートホール、演劇ホールともに年間目標を上回る実績を挙げ、コロナ禍を脱した感さえあります。また、利用者の多様なニーズに対応した新たなホール利用の形態である、ホールの部分利用も概ね定着しつつあります。

文化事業では、全国の劇場・音楽堂等が連携し7都市8公演で実施された、全国共同制作オペラ「ラ・ボエーム」が、その話題性から好評を博し、本館も含め各公演いずれも完売となりました。また、佐渡裕指揮新日本フィルハーモニー交響楽団やパーヴォ・ヤルヴィ指揮ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団による公演等、県民に質の高いオーケストラ公演に接する機会を提供するという県立劇場のミッションの実現に貢献しました。

これら着実な事業の運営によって、本年度の文化事業の目標入場者数28,000人に対し、入場者・参加者数は40,900人余と目標を大幅に上回りました。

令和6年度の重点的な取り組みである、「人材育成」と「関係機関との連携強化」については、実演芸術を担う人材の育成を図る「劇場人育成プログラム」の対象を、公立文化施設職員のみにとどまらず、施設設置者である自治体職員にも広げて実施し、のべ78館220名余の参加を得て、職員の知識習得や技能向上に努めました。

また、県内の公立文化施設と連携する「市町村ネットワーク事業」は、13市町（うち1町では中止）での公演を通じて、実演芸術を鑑賞する機会の地域間格差の是正のみならず、県内の関係機関等との企画・運営等に係る連携の深化にも繋がりました。

一方、熊本交響楽団と九州交響楽団との間で、それぞれ包括連携協定を結び、県内・県外やプロ・アマの枠を超えた、人材の育成や共同企画の実施等を協働で取り組んでいくこととしました。

2 業務報告

(1) 財団の活動

□評議員会、理事会

開催日	内容
4月27日	第78回理事会（決議の省略） 第1号議案 第58回評議員会（決議の省略）の招集
5月3日	第58回評議員会（決議の省略） 第1号議案 理事の選任（辞任による後任者の選任） 第2号議案 理事の選任（新任者の選任）
5月14日	第79回 理事会 第1号議案 専決処分の報告及び承認（令和5年度収支予算の第2回補正） 第2号議案 専決処分の報告及び承認（規程の改正） 第3号議案 令和5年度業務報告 第4号議案 令和5年度決算報告 第5号議案 令和6年度収支予算の第1回補正（案） 第6号議案 規程の廃止 第7号議案 役員候補者の選考 第8号議案 第59回評議員会の招集 第9号議案 評議員候補者の推薦
5月30日	第59回 評議員会 第1号議案 専決処分の報告及び承認（令和5年度収支予算の第2回補正） 第2号議案 令和5年度業務報告 第3号議案 令和5年度決算報告 第4号議案 令和6年度収支予算の第1回補正（案） 第5号議案 役員の選任（任期満了に伴う後任者の選任）
6月11日	第80回 理事会 第1号議案 理事長及び常務理事の選定 第2号議案 評議員選定委員会委員の選任
8月14日	第81回 理事会（決議の省略） 第1号議案 第60回評議員会の招集
8月20日	第60回評議員会（決議の省略） 第1号議案 公益財団法人熊本県立劇場役員等の報酬及び費用の弁償に関する規程の別表「評議員が定める役員等の各年度ごとの報酬総額並びに報酬の基準の額」の改正
9月10日	第82回理事会（決議の省略） 第1号議案 規程の改正（公益財団法人熊本県立劇場役員等の報酬及び費用の弁償に関する規程）
11月12日	第83回理事会 第1号議案 専決処分の報告及び承認（令和6年度文化事業） 第2号議案 令和7年度文化事業 第3号議案 理事候補者の選考 第4号議案 第61回評議員会の招集 第5号議案 評議員候補者の推薦
11月25日	第61回評議員会（決議の省略） 第1号議案 理事の選任
令和7年 2月13日	第84回理事会 第1号議案 令和7年度事業計画（案） 第2号議案 令和7年度収支予算（案） 第3号議案 役員等賠償責任保険契約の締結 第4号議案 第62回評議員会の招集

2月27日	第62回評議員会 第1号議案 令和7年度事業計画（案） 第2号議案 令和7年度収支予算（案）
3月18日	第85回理事会（決議の省略） 第1号議案 子ども未来プロジェクト2026準備資金の設定及び取扱規程の制定 第2号議案 シアターアジア2027事業準備資金の設定及び取扱規程の制定 第3号議案 育児・介護休業等に関する規程の一部改正

□監査

開催日	内容
5月7日	監事監査 （熊本県立劇場 監事）
6月5日	熊本県立劇場指定管理業務に係る実地調査 （熊本県 文化企画・世界遺産推進課）

□文化事業評価委員会

開催日	内容
10月10日	第1回文化事業評価委員会
令和7年 3月11日	第2回文化事業評価委員会

□役員候補者選考委員会

開催日	内容
4月21日	（決議の省略） 第1号議案 理事候補者の選考（辞任による後任者の選考） 第2号議案 理事候補者の選考（新任者の選考） 第3号議案 役員候補者の選考（任期満了に伴う後任者の選考）
10月24日	（決議の省略） 第1号議案 理事候補者の選考（辞任による後任者の選考）

□評議員選定委員会

決議の日	内容
5月30日	第1号議案 評議員の選任（任期満了に伴う新任者の選定）
11月25日	第1号議案 評議員の選任（辞任による後任者の選考）

□熊本県立劇場事業評価検討委員会（熊本県）

開催日	内容
7月9日	令和6年度第1回熊本県立劇場事業評価検討委員会 （指定管理者として出席）

(2) 県立劇場の使用の許可に関する業務

① 施設の利用状況

各施設の使用申請の受付および施設使用料の徴収事務に加えて、利用者が安全で快適に施設を利用できるよう、施設の維持管理および運営に努めました。

令和6年度の利用率と来館者数は、以下のとおりです。

[利用率の目標と実績]

施設名	年間目標	実績	差
コンサートホール	74.0%	77.5%	3.5P
演劇ホール	82.0%	83.3%	1.3P

[来館者数の目標と実績]

	年間目標	実績	達成率
来館者数	530,000人	459,225人	86.6%

資料2~4参照

[ホール部分利用実績]

(単位:件)

利用部分	コンサートホール		演劇ホール	
	令和6年度	令和5年度	令和6年度	令和5年度
ステージのみの使用	13	14	11	8
ステージ1階(地階)客席、 ホワイエのみの使用	17	23	9	6
ホワイエのみの使用	29	21	8	3
合計	59	58	28	17

(3) 実演芸術を担う人材を育成し確保する業務

① 劇場人の育成

実演芸術を担う人材の育成を図る「劇場人育成プログラム」を開催しました。参加対象は、熊本県公立文化施設協議会加盟館職員ですが、内容により公立文化ホールの設置者である地方自治体職員にも対象を広げ実施し、のべ78館223名が参加しました。

回	内 容	講 師	日 程	参加者 (人)
1	概論 地方の基礎自治体における文化 政策の課題とホールの役割	兵庫県立芸術文化観光専門職大学 副学長 藤野一夫	4/26(金)	55
2	アートマネジメント(1) 社会包摂-1	国際障害者交流センタービッグ・アイ 鈴木京子、上岡亜希	6/12(水)	26

3	アートマネジメント(2) 社会包摂-2	国際障害者交流センタービッグ・アイ 鈴木京子、上岡亜希	6/12(水)	23
4	ホール入門(1) 危機管理(BCP 対策)-1	MS&AD インターリスク総研(株) 工藤信介、小島勝治	6/25(火)	25
5	ホール入門(2) 危機管理(BCP 対策)-2	MS&AD インターリスク総研(株) 工藤信介、小島勝治	7/9(火)	16
6	舞台技術(1) 音響	(株)テレ・ポーズ 瀧川政志	7/18(木)	24
7	ホール入門(3) 接遇	(株)インソース 岩波美香	9/25(水)	16
8	舞台技術(2) ピアノ管理	(株)ピアノハーブ社 内川明	10/30(水)	23
9	アートマネジメント(3) 舞台製作に関する契約講座	骨董通り法律事務所 岡本健太郎	令和7年 2/14(金)	15

② 職員研修等実施状況

職員研修の充実を図り、職員一人ひとりの専門性や実践力の成長を促すため、年間計画を立てて研修を行っています。

令和6年度は、ハラスメント研修や心肺蘇生・AED研修、コンプライアンス研修等全職員を対象とした研修のほか、全国公立文化施設協会九州支部の業務マネジメントセミナーや公益法人会計セミナーといった専門性の向上を目的としたセミナー等を計画的に受講しました。

(4) 県内公立文化施設および関係機関等との連携に関する業務

① 熊本県公立文化施設協議会

同協議会には令和7年3月末現在で33館が加盟していますが、県立劇場は会長館として県内全域の文化振興と舞台芸術のレベルアップを図るためさまざまな事業を行っています。

加盟館33館を県北・県央・県南の3ブロックに分け、地域ごとの課題を主体的に研究・解決することを目的として、ブロックごとの活動を強化しています。

上期に実施したブロック会議(計3回)で、研修のテーマ、開催時期等について議論・調整を行い、下期にブロック毎の課題に応じた研修会(計3回)を実施し、延べ49館100名が参加しました。

また、宇土市民会館と県立劇場で実施した新規研修会には、延べ38館65名が参加しました。



県南ブロック研修(牛深総合センター)

〔県立劇場備品の貸し出し〕

熊公文協加盟館からの要望に基づき、必要な備品の貸し出しを行いました。

貸し出し先	貸し出し備品等	期間
あさぎり町須恵文化ホール	びょうぶ 鳥の子 (1双)	7/9~17
宇土市民会館	道具幕：野面・旧、野面・新、波	8/9~11
	道具幕：野面・旧、庭	11/23~24

そのほか、県外で開催される全国公立文化施設協会主催の研修に参加する際の旅費の一部を助成する全国公文協研修参加助成制度を活用して、岡山県、大分県、宮崎県、沖縄県で開催された研修会に延べ11館12名が参加しました。加盟館からは限られた予算で運営している中小規模館にとっては有意義な制度であり、今後も継続してほしい等の意見が多く寄せられました。

〔県立劇場のチケットシステムの活用〕

熊公文協加盟館等が実施する公演チケットの販売業務を県立劇場で受託し販売。昨年度の9施設から12施設に、件数は5件増の30件受託しました。

オンライン決済やコンビニ発券が可能のため、利用者にとってチケットの入手方法が容易となり、利便性の向上につながりました。

公立文化施設等	受託数(件)	公立文化施設等	受託数(件)
益城町文化会館	8	ウイングまつばせ	2
玉名市民会館	4	荒尾総合文化センター	2
八代市鏡文化センター	3	熊本城ホール	1
宇土市民会館	3	玉名市民会館	1
水俣市文化会館	2	あさぎり町須恵文化センター	1
菊池市文化会館	2	山都町体育館	1

② 関係機関との連携

i) 熊本交響楽団との包括的連携協定

5月29日に熊本交響楽団と包括連携協定を締結。

舞台芸術を支える人材の育成を図るとともに、共同企画の実施や県内各地での鑑賞機会の提供等に協働で取り組みます。



熊本交響楽団上野会長と姜館長による調印式

ii) 九州交響楽団との包括的連携協定

令和7年2月13日に（公財）九州交響楽団と包括連携協定を締結。

熊本県内での公演事業や芸術の普及啓発・人材育成等の教育に関する事業、アウトリーチ等の地域文化振興事業等に協働で取り組めます。



九州交響楽団櫻井理事長と姜館長による調印式

iii) 熊本市現代美術館・熊本デザイン専門学校

令和4年度から継続して取り組む「明後日朝顔プロジェクト」事業では、昨年に引き続き熊本デザイン専門学校の学生や地域住民と協働で朝顔の種まきを行ったほか、8月3、4日に熊本市現代美術館で開催された全国大会に参加しました。

iv) ゆめマート大江店

熊本県と㈱イズミの地域活性化包括連携協定に基づき、県内のゆめタウン、イオン、マックスバリュ各店舗に文化事業のポスターやチラシ設置等広報の協力を依頼しています。

ゆめマート大江店とは、県劇盆踊りでの出店協力、交通渋滞回避のための情報提供など、連携を図っています。

v) 台湾高雄市文化センターの視察

令和7年1月14日に、姜館長が台湾高雄市文化センターを視察。令和7年度から本格的に始動するシアターアジア事業に位置付けた、県立劇場と同文化センターとの協働事業の実施や、姉妹劇場提携に関する協定書締結の可能性について、意見交換を行いました。



高雄市文化センター視察の様子

③ インターンシップ等受入状況

インターンシップや職場体験を積極的に受け入れる「くまもとキャリア教育応援団（熊本市）」に登録しており、熊本学園大学の長期研修（約3か月）をはじめとする各大学からのインターンシップや小学・中学・高校生の職場体験学習の受け入れ、バックステージツアーによる施設見学等を積極的に行っています。

今年度は九州大谷短期大学、熊本県立大学、熊本学園大学、熊本県立農業高等学校のインターンシップと、熊本市立白川中学校の職場体験生を受け入れました。

[インターンシップ等受入状況]

受入日	受入校
8/13~9/15	九州大谷短期大学 2年/1名 (インターンシップ)
9/5~9/11	熊本県立大学 2年/1名 (インターンシップ)
9/10~9/12	熊本市立白川中学校 2年/3名 (職場体験)
9/24~12/12	熊本学園大学 2年/2名 (インターンシップ)
12/10~12/12	熊本県立農業高等学校/2名 (インターンシップ)

バックステージツアーでは、受け入れる学校等の要望に合わせた多彩なプログラムを企画しました。参加した子どもたちが音響・照明機器の操作を体験するなど、学校教育の一環である総合的な学習の時間（自己の生き方を考える探求的な職場体験学習）への取り組みに寄与しました。

[バックステージツアー]

実施日	受入団体	参加者
6/6	熊本市立大江小学校 4年生	128人
8/2	熊本学習支援センター	17人
12/20	熊本市教育支援センター「フレンドリーあいぱる大江教室」「火の君教室」「新町教室」「託麻教室」	26人
令和7年 2/7	熊本大学工学部土木建築学科	13人
3/26	放課後等デイサービス あゆみスカイ	15人
3/28	放課後等デイサービス 果実の木	13人

[視察団体の受け入れ]

実施日	受入団体
6/9	久留米シティプラザ施設運営課/職員 10名 (施設見学、貸館運営の状況や業務効率化、労務管理等意見交換)



バックステージツアー 大江小学校

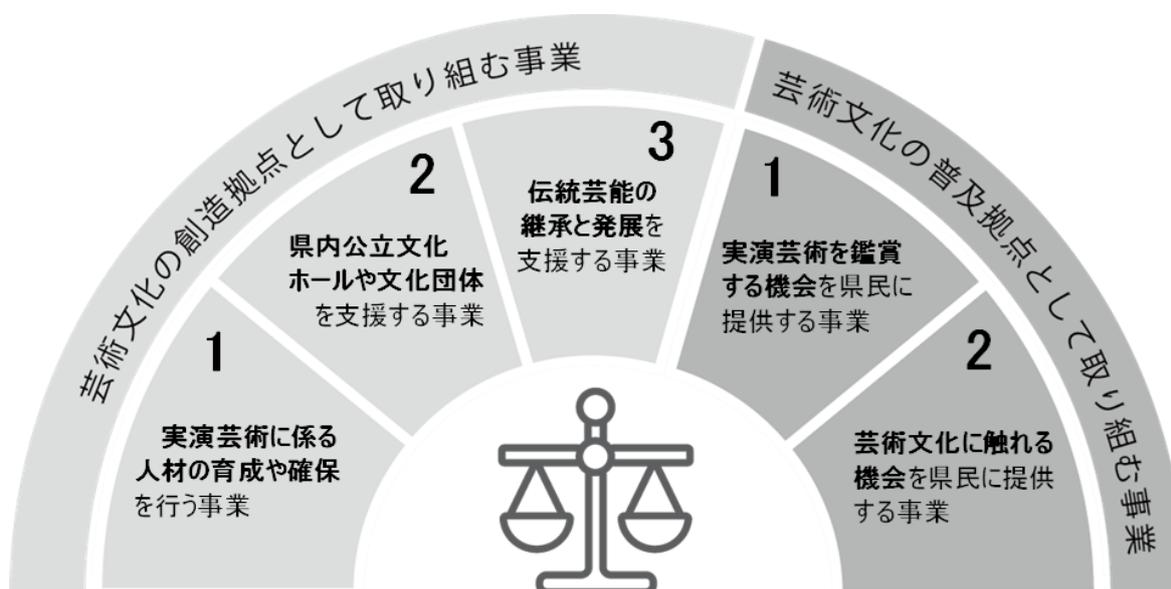


バックステージツアー 熊本大学

(5) 県民の文化の振興に必要な業務

① 文化事業の基本的な考え方

指定管理者事業計画書に掲げた下記の事業体系に基づき取り組んでいます。

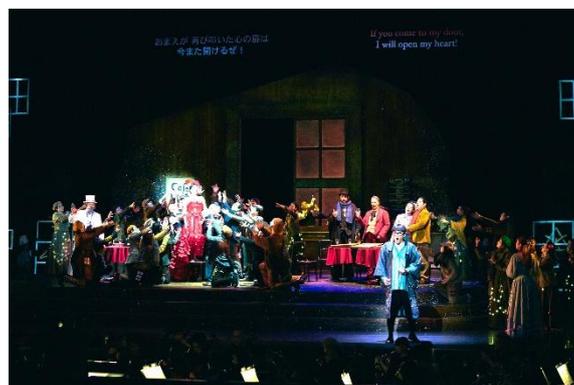


また、県立劇場条例の一部改正により、実演芸術を担う人材の育成や実演芸術の振興のための関係機関等との連携強化が求められていることを受け、実演芸術家を育成する事業や、制作者や技術者といった専門人材育成に係る事業、関係機関との連携事業に重点的に取り組んでいます。

② 令和6年度に実施した主な事業

i) 全国共同制作オペラ「ラ・ボエーム」

全国の劇場・音楽堂と芸術団体が連携し、単独ではなし得ない独創的・高レベルのオペラを新制作するプロジェクトに参画しました。指揮者の井上道義最後のオペラで、演出・振付・美術・衣裳のすべてを森山開次が担当するなど、話題性の高いプロダクションとなり、7都市8公演すべてが完売。熊本公演にはNHK熊本児童合唱団とラスカーラ・オペラ協会が出演し、舞台芸術としての質の向上のみならず、地域社会との連携強化や文化振興にまで広がる多面的な効果を生み出しました。



ii) 劇場人育成プログラム

制作者や技術者等、実演芸術を担う専門人材の育成に係る事業として、公立文化ホール職員向けの研修プログラム「劇場人育成プログラム」を継続実施しています。令和6年度はアートマネジメント、接遇、舞台技術（音響）等、9回の研修を実施しました。

iii) 第 66 回熊本県芸術文化祭オープニングステージ「ひこばえ」

例年実施する県民参加の創作ステージは「和太鼓」をフィーチャー。日本を代表する太鼓芸能集団「鼓童」をゲストに、オーディションで選出した県内の太鼓打ち 22 名が参加しました。

また、国の重要有形民俗文化財である「宇土の雨乞い大太鼓」による演奏など、本演奏会のために書き下ろされた新曲が披露されました。



iv) けんげきキッズプログラム

子ども向け公演やワークショップを実施する「けんげきキッズプログラム」シリーズを今年度からスタート。俳優の小林顕作による絵本の読み聞かせ「絵本のじかんだよ！」と、古家優里ダンスワークショップを実施、多くの子どもたちが劇場を訪れました。

v) 市町村ネットワーク事業

県内の公立文化施設と連携する「市町村ネットワーク事業」として、13 市町（うち 1 町では中止）で公演を実施。公演を鑑賞する機会の地域間格差是正に寄与しました。

vi) 県劇盆踊り

地域に開かれた「共生の劇場」として、地域住民が気軽に立ち寄ることができる集いの場を創出することを目的に、「県劇盆踊り」を実施しました。邦楽の演奏家による生演奏で「牛深ハイヤ踊り」等を楽しむ、県劇ならではの企画です。

台風やコロナ禍で実施見送りが続いていましたが、5 年度より再開、今後も継続実施する計画です。



vii) 多彩な鑑賞事業の実施

コンサートホールと演劇ホール、2 つの専用ホールを持つ劇場として、「佐渡裕指揮新日本フィルハーモニー交響楽団」や「La Mère 母」「小曽根真ピアノ・ソロ 2024」「パーヴォ・ヤルヴィ指揮ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団」といった多彩な鑑賞公演を実施しました。また、放送局などとの共催公演にも積極的に取り組み、県民に質の高い公演に接する機会を創出しています。

viii) 演奏家派遣アウトリーチ事業

市町村の学校等に演奏家を派遣し、音楽の出前授業を行う事業。年々実施希望が増え、令和 6 年度は新規実施自治体の球磨村を含む全 11 市町村 62 コマを実施しました。

ix) 劇場って楽しい！！

障害の有無に関わらず舞台芸術に触れる機会を提供する事業として、知的・発達障がい児（者）に向けた劇場体験プログラム「劇場って楽しい！！」を実施しました。

今年度は県立劇場のほか天草市でも開催、地方でのニーズの高さが窺えます。



③ 令和6年度文化事業の入場者・参加者数

令和6年度の目標入場者数28,000人に対し、入場者・参加者数は40,910人と目標を46.1ポイント上回りました。「玉名女子高等学校吹奏楽部コンサート」「金子三勇士ピアノリサイタル」の2公演を追加実施したことに加え、コロナ禍で落ち込んでいた「市町村ネットワーク事業」の集客が回復し、大幅増となりました。

④ 入場者アンケート

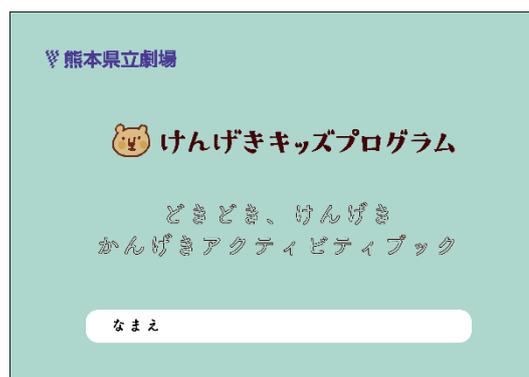
公演別の満足度では、「ホワイエサロンコンサート vol.10 カルテット・スピリタス」と参加型バックステージツアー「行くぜ！劇場探検隊」は、「たいへん満足」「満足」と回答した割合が100%、そのほかの公演も95%を超え、非常に高い満足度を得ました。

事業名	回答率 (%)	満足度 (%)
佐渡裕指揮新日本フィルハーモニー交響楽団	16.7	99.2
La Mère 母	30.2	96.2
劇場って楽しい！！（熊本公演）	26.8	99.0
第66回芸文祭オープニングステージ「ひこばえ」	36.9	98.5
絵本の時間だよ！	7.7	95.6
全国共同制作オペラ「ラ・ボエーム」	24.1	99.6
小曾根真ピアノ・ソロ2024	29.9	99.5
パーヴォ・ヤルヴィ指揮ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団	22.5	99.5
ホワイエサロンコンサート vol.8 県立劇場40周年記念カルテット	44.9	98.6
ホワイエサロンコンサート vol.9 Ensemble Horizonte	68.5	98.4
ホワイエサロンコンサート vol.10 カルテット・スピリタス	50.6	100.0
金子三勇士ピアノリサイタル	38.5	99.5
行くぜ！劇場探検隊	100.0	100.0

⑤ アクティビティブックの配布

けんげきキッズプログラムの開始に合わせて、観劇マナーの紹介と感想ノートの機能を持たせたアクティビティブックを制作し配布しました。

公演の鑑賞やワークショップへの参加を通して感じたことを文字や絵に起こし記録。家族のコミュニケーションのきっかけになり、また、あとから振り返ることで劇場を身近に感じてもらうツールとして好評です。



⑥ 多様な財源の確保

文化事業では、文化庁の「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」、「子供舞台芸術鑑賞体験支援事業」、「劇場・音楽堂等機能強化推進事業（共同制作支援事業）」に採択され、助成金 23,872 千円を獲得したほか、熊本県労働局の「両立支援等助成金（育児休業等支援コース）」で 300 千円を獲得。また、オペラ「ラ・ボエーム」では、肥後銀行から協賛金を受けるなど、多様な財源の確保に努めました。

⑦ 自己評価

熊本県立劇場の行う文化事業について、県内有識者からの意見を聴取し文化事業を評価するため、平成 30 年度から文化事業評価委員会を設置しています。令和 6 年度は 10 月と 3 月に文化事業評価委員会を開催しました。

資料 6 [文化事業評価委員会議事録] 参照

⑧ 個別文化事業の状況

資料 7 [令和 6 年度文化事業] 参照

(6) 県立劇場の広報に関する業務

広報活動は、県民と県立劇場をつなぐ重要な活動で、人と人をつなぐ「共生の広場」としての劇場を目指すため、県民との双方向のコミュニケーションを図ります。

広報媒体を利用して、文化芸術活動の拠点となる県立劇場の役割や、文化芸術活動の裾野を広げるための情報発信を行うとともに、財団の活動に対する県民の理解促進を図り、来館者や利用者の獲得に努めます。

① 広報ワーキンググループの活動

所属グループを超えた広報ワーキンググループメンバーを中心に、財団全体の広報活動を行いました。令和6年度は全7回のミーティングを実施し、広報誌以外での情報発信も積極的に行いました。

② 季刊誌「ほわいえ」

広報誌のコンセプトを「つながる、ひろがる、あつまる ほわいえ」とし、県立劇場の活動全般の情報発信を強化。県民の県立劇場への理解を深めるよう発行作業を行っています。

年4回発行する季刊誌ほわいえは、web版の導入でバックナンバーの検索が容易になり、季刊誌が届かない人・場所への広報が広がり、より多くの人へのアプローチができるようになりました。

■熊本県立劇場季刊誌ほわいえ（年4回、毎3,000部発行）

発行日	内容
6月20日(木)	2024 夏号 vol. 021 特集：特別対談 木村敬知事×姜尚中館長 事業：全国共同制作オペラ「ラ・ボエーム」制作記者会見レポート
9月20日(金)	2024 秋号 vol. 022 特集：県劇盆踊り2024 事業：北部九州ジュニアオーケストラフェスティバル in アクロス福岡
12月20日(金)	2024 冬号 vol. 023 特集：特別対談 劇作家・演出家 横内謙介×姜尚中館長 事業：熊本県芸術文化祭オープニングステージ『ひこばえ』
令和7年 3月20日(木)	2025 春号 vol. 024 特集：新スタインウェイお披露目 事業：文化事業2025年度ラインナップ

③ 文化事業年間パンフレットの製作・配布

令和6年度の文化事業を紹介する年間パンフレットを製作。15,000部を県内外の公立文化ホールや公共施設、教育機関等に配布しました。



④ 施設案内リーフレットの作成

来館者が自由に手に取ることができ、貸館利用者にも配布できるリーフレットを新たに制作。A5サイズと持ち運びしやすい大きさで、館内の紹介やフロアガイド、チケット購入サイトに誘導するQRコード、交通アクセスのほか、財団のコンセプト、ミッションを明記しています。今後広報ツールとして活用します。



⑤ SNS 登録会員数

SNS	令和6年度	令和5年度
Facebookのフォロワー数	2,221人	2,045人
X(旧Twitter)のフォロワー数	1,282人	1,132人
Youtube「ケンゲキアートチャンネル」登録者数	1,090人	1,030人
Instagramのフォロワー数	1,423人	766人

⑥ ホームページのリニューアル

令和5年度にデザインを一新し訪問者にとって必要な情報がすぐに探せるレイアウトに変更。サイトマップも順次更新します。新着情報を掲載したほか、チケット発売・完売情報、公告などの情報発信を行いました。ホームページ(HP)の更新、SNSのアップ数は以下のとおりです。

SNS	令和6年度	令和5年度
ホームページ(新着情報)	66回	68回
Facebook	92回	97回
X	163回	208回

⑦ 先行予約会員制度

令和元年6月から先行予約会員に向け、文化事業のチケット先行予約販売を実施しています。先行予約会員には、令和7年3月末で17,043人(令和6年3月末14,980人、2,063人増)が登録しています。

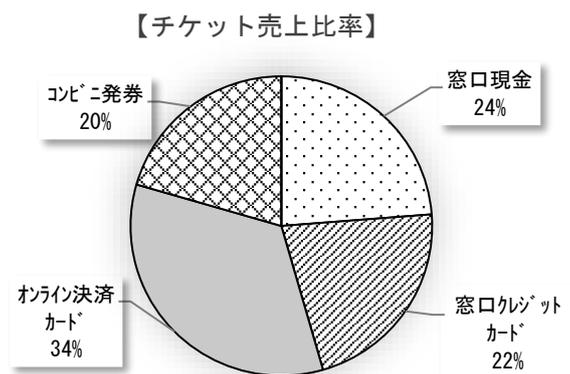
⑧ チケット販売実績

	令和6年度	令和5年度
販売枚数	17,477枚	11,719枚
販売金額	59,666,500円	62,205,300円

令和6年度のチケット販売実績は、過去最高の1万7千枚に達しましたが、チケット単価が低かったこともあり、販売金額は昨年度を下回りました。

また、劇場窓口とコンビニエンスストアの利用者の比率はほぼ横ばいですが、窓口ではクレジットカードを利用する割合が昨年度16%から22%と増え、キャッシュレス化が進んでいます。

なお、昨年9月に発生した県立劇場ホームページのチケット購入サービスを通じた、チケットのオンライン不正購入については、より高いセキュリティ対策を行っています。



(7) 県立劇場の施設等の使用料の徴収および納付に関する業務

① 使用料の収納実績

県立劇場の使用料の収納については、県の会計規則に基づき、適正に納付を行いました。令和6年度の使用料収入は、次のとおりです。

[施設使用料収納実績]

施設名	施設使用料収入見込額	実績	達成率
設備使用料	131,252,000円	124,844,915円	95.1%
駐車場使用料	57,760,000円	71,132,000円	123.2%

② 代行業務・法人備品使用料の実績

令和6年度の代行手数料等の雑収入は、18.9ポイント増の12,249千円でした。

なかでもプレイガイド業務は5,806千円と全体の47%を占め、県立劇場で開催される公演に留まらず、県内公立文化施設で行われる公演チケットの受託販売が件数・金額ともに増えています。

[代行手数料等 収入実績]

項目	令和6年度	令和5年度
代行、付帯サービス		
プレイガイド業務（チケット登録・販売・代引・払戻）	5,806,101円	5,305,039円
各種手配（看板、調律、物販手数料等）、コピー等	1,417,224円	941,202円
自動販売機手数料等	792,342円	625,278円
法人備品		
AV機器（DVDプレイヤー、音響機器）	66,690円	42,130円
映像機器（プロジェクター、カメラレンズ）	3,924,750円	3,192,500円
舞台備品（LED、照明・音響セット、インターネットほか）	169,620円	128,560円
その他備品の貸出（譜面台、クロス、椅子カバー）	73,030円	61,230円
合計	12,249,757円	10,295,939円

(8) 実演芸術の公演または発表のための施設等の提供を行う業務

① 業務打ち合わせ

ホールでの催事については、公演の約 1 か月前に主催者と施設サービス・舞台技術グループ職員が、舞台進行や舞台配置図及び使用備品の確認等の打ち合わせを行いました。令和 6 年度は 175 公演（前年度比 47 公演増）について実施しました。

② 舞台技術職員の弾力的な配置対応

舞台転換など演出が多様な公演では安全を確保しスムーズな舞台進行を行うため、必要に応じ最大 5 人までの舞台技術職員（舞台・照明・音響）を配置しました。令和 6 年度は 118 公演（前年度比 24 公演増）、のべ 175 人（仕込み、リハーサル日を含む、同比 38 人増）を増員しました。

③ モニタリング

公演終了後に利用者アンケートを実施し、ホール利用者の満足度と改善要望事項を個別に把握し、管理運営に反映させました。

また、日々の業務の中で直接寄せられる様々な意見は、「利用者記録（カルテ）」等により、利用者ニーズの把握及び情報共有に努めました。

[利用者アンケート]

評価項目（4段階評価）	令和 6 年度 回収 17 団体	令和 5 年度 回収 19 団体
1 利用料金 〈4：安い 3：やや安い 2：やや高い 1：高い〉	2.3	2.7
2 利用手続き 〈4：円滑 3：概ね円滑 2：やや煩雑 1：煩雑〉	3.7	3.5
3 フロア職員の接客態度や対応 〈4：良い 3：概ね良い 2：あまり良くない 1：良くない〉	3.9	3.8
4 舞台職員の接客態度や対応 〈4：良い 3：概ね良い 2：あまり良くない 1：良くない〉	3.9	3.9
5 舞台・音響・照明の設備 〈4：良い 3：概ね良い 2：あまり良くない 1：良くない〉	3.8	3.9
6 また利用したいと思うか 〈4：ぜひ利用したい 3：利用してもいい 2：あまり利用したくない 1：利用したくない〉	3.9	3.9
平均	3.6	3.6

資料 5 [利用者アンケート] 参照

④ お客様の声・みなさまの声

館内にご意見箱を設置し「お客様の声」を、ホームページ内のコーナーで「みなさまの声」を収集しました。令和 6 年度の「声」は次のとおりです。

項目	件数	要望・ご意見・問い合わせ等（一部）
お客様の声	5	駐車場の混雑、トイレの数・ロビーの椅子の数についての要望
みなさまの声	89	施設利用：施設の空き状況・予約、機材等の確認、料金 チケット：システム、予約・購入・キャンセル、車椅子席、カード決済 公演：自主事業、進行表、物販、チラシ折り込み、終演時間、参加申込 拾得物：落とし物・忘れ物 その他：ホームページ、特設サイト、季刊誌、駐車場・駐車場精算機、アンケート依頼

(9) 県立劇場の施設等の維持および修繕に関する業務

① 施設設備の維持管理

県立劇場は、不特定多数が利用する大規模施設であり、劇場という施設の性質上、高い安全性と快適性の確保が求められています。適切なメンテナンスおよび修繕によりトラブルを未然に防止することで、施設利用の継続性を確保しています。

令和6年度は、計画的に樹木剪定や伐採、植栽（6区画 約5,189千円）を行ったほか、設備や機器の更新、取換工事など、31件（約9,912千円）の施設設備の修繕工事を行いました。

[修繕実施状況]

場所	内容
コンサートホール	・舞台吊物装置電子部品交換 ・ホワイエ Wi-Fi 修繕 ・ホワイエ椅子のシート張替え
演劇ホール	・舞台エレベーターブレーキチェックスイッチ交換 ・CD プレイヤー修繕 ・楽屋ファンコイル吹出器具取替え ・楽屋入口ドア修繕 ・ホワイエ椅子のシート張替え
大会議室	・パーティション安全調査と修繕
音楽リハーサル室	・防音壁修繕
レストラン	・ドレンポンプ漏水修繕
中央監視室	・冷温水発生器タッチパネル取替え ・空調機加湿用フィルター交換 ・AC5 空調機ダンパー設置 ・スプリンクラー圧カススイッチ取替え
守衛室	・ふすま張り替え
管理棟事務所	・電話機能追加（録音機能メッセージ）
全館	・男子・女子トイレ便器および洗面台等 （フラッシュバルブ、ウォシュレット、洗面台水漏れ、水石鹼供給栓、自動水栓、便座からの水漏れ等の修繕）
駐車場	・出入口ゲート修繕 ・硬貨搬送部部品交換
その他館外	・車道 交通標識建替え

熊本県立劇場管理運営業務仕様書にある「県立劇場の施設・設備の維持及び修繕に関する業務」の各項目を確実に実施していくことに努めています。保守点検や修繕工事は、施設利用日数への影響が最小となるよう効率的に行っており、保守点検等委託業務にあたっては財団職員が監督し、細心の注意を払いながら実施しました。

[施設維持管理業務]

項目	内容
施設管理	清掃、建築物環境衛生管理、警備、庭園管理、設備運転監視・施設設備定期点検
空調管理	中央監視装置及び空調用自動制御機器保守点検、空調設備点検、ボイラー排ガス測定、冷温水発生器保守点検、ヒートポンプチラー点検
設備管理(舞台)	迫り装置等保守点検、照明設備保守点検、吊物装置等保守点検、音響設備保守点検、エレベーター装置等保守点検
楽器類	ピアノ・チェンバロ保守点検
設備維持管理	エレベーター保守点検、消防用設備点検、防火設備点検、自動ドア保守点検、緊急ガス遮断装置保守点検、有料駐車機保守点検、自家発電設備保守点検、防災設備定期点検、高圧電気設備定期点検、緊急ガス遮断設備等点検、給湯ボイラー点検、地下汚水ピット清掃、高架水槽清掃、飲料水水質検査、アスベスト濃度測定、建築物定期点検(3年ごと)、建築設備定期点検
その他	廃棄物処理、トイレ洗浄機・消臭器交換、玄関マット

② 危機管理の対応

災害発生時には多大な被害が発生することが予想されるため、日頃から劇場職員の危機管理に関する知識の習得と意識の向上をはじめ、以下を実践しています。

公演本番時に危機管理責任者および危機管理担当者を配置

危機管理者には甲種防火管理者を充て、令和6年度4人が取得。計19人の職員が取得済み。

緊急事態に備え、危機管理体制表に基づき主催者と連携し、来館者の安全を確保

消防訓練や避難訓練など、危機管理に関する訓練および研修の実施

訓練前に防火対策委員会を開き、訓練の目的や流れを確認。訓練後は参加者全員で振り返りを行い職員間で情報を共有、次の訓練に活かしています。

[訓練実績]

実施日	項目	概要
4月17日(水)	消防訓練	防災センターの機器操作方法のレクチャー後、2班に分かれて火災訓練を実施。
9月11日(水)	消防訓練	中央消防署員立会いのもと、事務局、舞台スタッフ、主催者、観客に分かれ公演中の火災を想定した消防訓練。
令和7年 2月25日(火)	地震訓練	コンサート、演劇両ホールの稼働日に、震度7の地震が発生したと想定した避難訓練を実施。

また、劇場人育成プログラム「危機管理(BCP対策)」の研修を受け、7月1日に事業継続計画書(BCP)を全面改訂。BCPの発動基準、優先順位を定めたほか、業務の重要度を定義し、優先業務の実施マニュアルを策定しました。

BCPは全職員に共有しています。

③ スタインウェイピアノの更新

劇場開館以来コンサートホールで使用してきたスタインウェイピアノ 1 台を 42 年ぶりに更新。8 月 6 日にスタインウェイジャパン(株)本社でピアノの選定を行い、9 月 12 日に納品されました。

④ 台風 10 号県内接近による臨時休館

気象庁による台風情報で、非常に強い台風 10 号が、8 月 29 日から 30 日にかけて熊本県に接近する予報が発出。来館者の安全を優先するため、29、30 日を臨時休館としました（8 月 28 日発表）。また、暴風雨による高木の枝折れ、倒木の危険性もあることから、県立劇場駐車場を臨時休館に合わせて閉鎖しました。

上記 2 日間に開催予定だった催事は延期または中止しましたが、大きな混乱は見られませんでした。

(10) その他、県立劇場の管理上必要と認める業務

① カスタマーハラスメント対策基本方針の制定

近年、社会問題化しているカスタマーハラスメント（カスハラ）に適切に対処できるようにするために、カスハラに対する基本方針や具体的な対応手順などをまとめたマニュアルを策定、11 月に制定しました。基本的な考え方やカスハラへの対応、具体的な対策については、劇場ホームページに掲載しています。

② 熊本県 SDGs 登録制度（第 2 期事業者登録）の更新

熊本県が「熊本県 SDGs 登録制度」を創設し、県内の事業所の登録を推進する同制度に取り組み、令和 4 年 1 月 26 日に登録。登録期間の 3 年が経過したため、令和 7 年 1 月に更新しました。県立劇場は引き続き SDGs の取り組みを推進し、普及啓発を行います。

③ 便益設備の管理

県立劇場内に自動販売機を事務所前と地下 1 階リハーサル室前に計 3 台設置しているほか、利用者向けにデジタルフルカラー複合機 1 台を事務所前に設置、利用者の利便性を確保しました。

④ 行政財産の目的外使用に係る経費の取扱い

県立劇場内の行政財産の目的外使用（レストラン、自動販売機等）に係る光熱水費については、翌月 1 日に使用量を計算し各業者に請求書を発行しています。各業者からは請求書に基づき、翌月末日までにその費用を徴収し、遅滞なく電力会社等に支払いました。

⑤ 交通誘導整理員の配置

県立劇場で開催される催物の開演・終演前後で劇場駐車場及び周辺道路の混雑が予想される際は、予め交通誘導整理員を配置し来場者の安全確保を図りました。今年度は 45 回、131 人の整理員を配置しました。

また、終演後一斉出庫により混雑が予想される場合も、誘導員を配置して駐車場の整理を確実に行い、渋滞緩和対策を行いました。

■資料

□資料1 [施設使用許可件数] (単位:件)

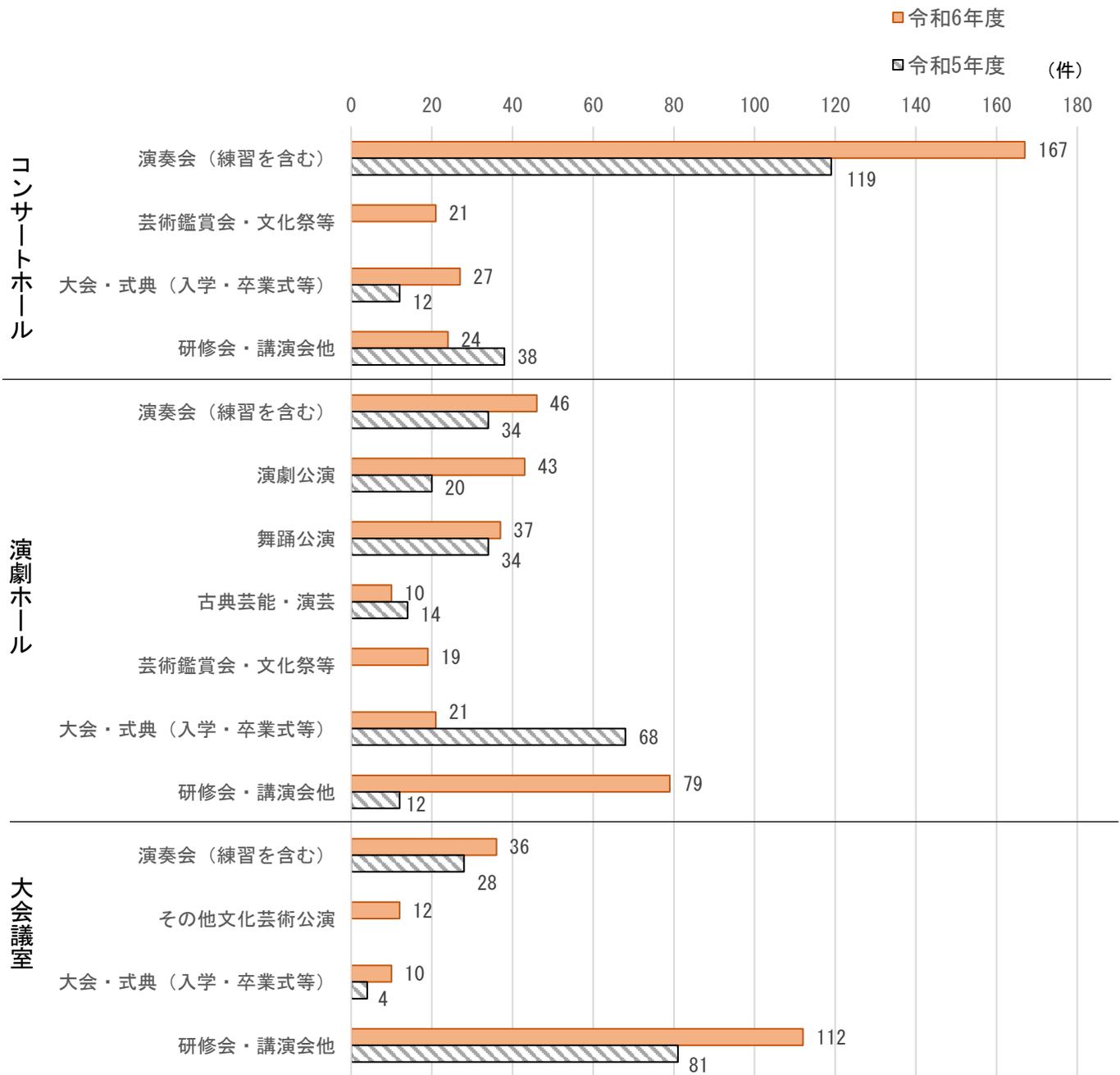
	令和6年度	令和5年度	前年度比
使用許可件数	1,144	734	410

※令和6年度のシステム更新に伴い、R6.4の使用許可件数は、R5と重複の可能性あり。

□資料2 [施設別利用状況(ホール・大会議室)] (単位:日)

施設名	利用状況	令和6年度	令和5年度	前年度比
コンサートホール	利用可能日数	276	208	68
	利用日数	214	169	45
	利用率(%)	77.5	81.3	-3.8
	入場者数(人)	182,221	125,281	56,940
演劇ホール	利用可能日数	269	209	60
	利用日数	224	182	42
	利用率(%)	83.3	87.1	-3.8
	入場者数(人)	115,753	89,182	26,571
大会議室	利用可能日数	310	217	93
	利用日数	155	113	42
	利用率(%)	50.0	52.1	-2.1
	入場者数(人)	20,560	14,641	5,919
和室	利用可能日数	327	227	100
	利用日数	74	71	3
	利用率(%)	22.6	31.3	-8.7
	入場者数(人)	1,384	1,549	-165
音楽リハーサル室	利用可能日数	322	225	97
	利用日数	230	172	58
	利用率(%)	71.4	76.4	-5.0
	入場者数(人)	16,750	12,956	3,794
演劇リハーサル室	利用可能日数	322	227	95
	利用日数	178	134	44
	利用率(%)	55.3	59.0	-3.7
	入場者数(人)	11,029	9,136	1,893
第1練習室	利用可能日数	326	227	99
	利用日数	165	109	56
	利用率(%)	50.6	48.0	2.6
	入場者数(人)	11,400	8,431	2,969
第2練習室	利用可能日数	323	227	96
	利用日数	218	165	53
	利用率(%)	67.5	72.7	-5.2
	入場者数(人)	5,334	5,479	-145
第3練習室	利用可能日数	326	227	99
	利用日数	260	149	111
	利用率(%)	79.8	65.6	14.2
	入場者数(人)	7,954	5,544	2,410
他の入場者数	入場者数(人)	86,840	60,376	26,464
入場者数合計(人)		459,225	332,575	126,650

□資料3 [ホール別・形態別利用状況 (ホール・大会議室)] (単位:件)



※令和6年度のシステム変更に伴い、形態別分類は一部一致せず。

□資料4 [ホール等の年度別月別利用状況表]

[コンサートホール・演劇ホール・大会議室]

施設名	年度	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月	
		利用日数 (日)	利用率 (%)												
コンサート ホール	利用可能日数	25日		25日		24日		27日		24日		20日		24日	
	令和6年度	16	64.0%	15	60.0%	19	79.2%	22	81.5%	22	91.7%	15	75.0%	23	95.8%
	利用可能日数	26日		26日		26日		27日		26日		25日		25日	
	令和5年度	20	76.9%	12	46.2%	16	61.5%	25	92.6%	22	84.6%	22	88.0%	25	100.0%
	利用可能日数	28日		26日		23日		29日		26日		21日		26日	
	令和4年度	14	50.0%	15	57.7%	14	60.9%	23	79.3%	20	76.9%	13	61.9%	24	92.3%
	利用可能日数	22日		24日		24日		26日		29日		23日		26日	
	令和3年度	10	45.5%	7	29.2%	4	16.7%	20	76.9%	14	48.3%	11	47.8%	12	46.2%
	利用可能日数	4日		10日		22日		25日		27日		24日		21日	
	令和2年度	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	28.0%	8	29.6%	13	54.2%	4	19.0%
	利用可能日数	26日		22日		23日		26日		28日		24日		23日	
	令和元年度	14	53.8%	15	68.2%	16	69.6%	22	84.6%	21	75.0%	17	70.8%	19	82.6%
	利用可能日数	26日		26日		24日		29日		27日		25日		26日	
	平成30年度	19	73.1%	19	73.1%	17	70.8%	23	79.3%	24	88.9%	17	68.0%	18	69.2%
	利用可能日数	26日		27日		24日		29日		26日		26日		25日	
	平成29年度	19	73.1%	15	55.6%	14	58.3%	21	72.4%	19	73.1%	14	53.8%	19	76.0%
	利用可能日数	12日		0日		0日		0日		7日		26日		25日	
平成28年度	6	50.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	4	57.1%	19	73.1%	23	92.0%	
利用可能日数	24日		27日		24日		28日		27日		26日		22日		
平成27年度	17	70.8%	19	70.4%	14	58.3%	28	100.0%	27	100.0%	19	73.1%	20	90.9%	
演劇ホール	利用可能日数	25日		24日		25日		27日		25日		22日		22日	
	令和6年度	23	92.0%	20	83.3%	20	80.0%	25	0.0%	18	72.0%	19	86.4%	21	95.5%
	利用可能日数	26日		26日		26日		26日		29日		25日		24日	
	令和5年度	22	84.6%	20	76.9%	22	84.6%	23	88.5%	26	89.7%	21	84.0%	22	91.7%
	利用可能日数	28日		24日		25日		29日		27日		24日		24日	
	令和4年度	16	57.1%	17	70.8%	24	96.0%	24	82.8%	18	66.7%	18	75.0%	22	91.7%
	利用可能日数	22日		21日		26日		29日		29日		21日		24日	
	令和3年度	17	77.3%	12	57.1%	12	46.2%	23	79.3%	10	34.5%	11	52.4%	14	58.3%
	利用可能日数	4日		8日		23日		28日		28日		24日		21日	
	令和2年度	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	8	28.6%	10	35.7%	11	45.8%	13	61.9%
	利用可能日数	26日		20日		28日		28日		28日		23日		23日	
	令和元年度	15	57.7%	10	50.0%	20	71.4%	27	96.4%	22	78.6%	18	78.3%	22	95.7%
	利用可能日数	0日		0日		0日		0日		13日		23日		26日	
	平成30年度	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	11	84.6%	18	78.3%	22	84.6%
	利用可能日数	26日		25日		25日		29日		29日		25日		24日	
	平成29年度	17	65.4%	14	56.0%	17	68.0%	24	82.8%	21	72.4%	21	84.0%	20	83.3%
	利用可能日数	12日		0日		0日		0日		7日		28日		24日	
平成28年度	8	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	71.4%	24	85.7%	23	95.8%	
利用可能日数	21日		29日		23日		29日		30日		23日		15日		
平成27年度	15	71.4%	15	51.7%	16	69.6%	23	79.3%	28	93.3%	21	91.3%	14	93.3%	
大会議室	利用可能日数	25日		27日		28日		29日		26日		25日		27日	
	令和6年度	11	44.0%	9	33.3%	13	46.4%	19	65.5%	14	53.8%	15	60.0%	11	40.7%
	利用可能日数	26日		26日		28日		29日		28日		26日		27日	
	令和5年度	8	30.8%	11	42.3%	16	57.1%	17	58.6%	15	53.6%	16	61.5%	15	55.6%
	利用可能日数	28日		27日		28日		29日		29日		24日		27日	
	令和4年度	10	35.7%	13	48.1%	17	60.7%	13	44.8%	11	37.9%	12	50.0%	21	77.8%
	利用可能日数	21日		18日		28日		29日		28日		24日		27日	
	令和3年度	6	28.6%	9	50.0%	3	10.7%	13	44.8%	9	32.1%	5	20.8%	7	25.9%
	利用可能日数	13日		20日		24日		29日		28日		26日		24日	
	令和2年度	0	0.0%	1	5.0%	5	20.8%	2	6.9%	10	35.7%	9	34.6%	10	41.7%
	利用可能日数	26日		26日		28日		29日		29日		26日		27日	
	令和元年度	16	61.5%	20	76.9%	18	64.3%	25	86.2%	22	75.9%	20	76.9%	19	70.4%
	利用可能日数	26日		27日		28日		29日		29日		26日		26日	
	平成30年度	20	76.9%	17	63.0%	17	60.7%	21	72.4%	19	65.5%	14	53.8%	19	73.1%
	利用可能日数	26日		28日		28日		29日		29日		27日		27日	
	平成29年度	7	26.9%	4	14.3%	9	32.1%	14	48.3%	11	37.9%	10	37.0%	7	25.9%
	利用可能日数	12日		0日		0日		0日		7日		29日		25日	
平成28年度	7	58.3%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	5	71.4%	28	96.6%	19	76.0%	
利用可能日数	26日		26日		25日		29日		29日		29日		27日		
平成27年度	20	76.9%	22	84.6%	18	72.0%	20	69.0%	22	75.9%	23	79.3%	21	77.8%	

施設名	年度	11月		12月		1月		2月		3月		計	
		利用日数 (日)	利用率 (%)										
コンサート ホール	利用可能日数	20		18		23		24		22		276	
	令和6年度	18	90.0%	14	77.8%	14	60.9%	15	62.5%	21	95.5%	214	77.5%
	利用可能日数	12		0		0		0		15		208	
	令和5年度	12	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	15	100.0%	169	81.3%
	利用可能日数	21		23		15		15		17		270	
	令和4年度	18	85.7%	19	82.6%	14	93.3%	15	100.0%	17	100.0%	206	76.3%
	利用可能日数	24		24		23		26		26		297	
	令和3年度	17	70.8%	14	58.3%	5	21.7%	8	30.8%	15	57.7%	137	46.1%
	利用可能日数	0		0		0		0		12		145	
	令和2年度	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	9	75.0%	41	28.3%
	利用可能日数	23		20		24		25		26		290	
	令和元年度	19	82.6%	17	85.0%	15	62.5%	10	40.0%	1	8.3%	186	64.1%
	利用可能日数	27		21		18		3		17		269	
	平成30年度	22	81.5%	15	71.4%	13	72.2%	2	66.7%	16	94.1%	205	76.2%
	利用可能日数	28		15		16		0		12		254	
	平成29年度	20	71.4%	15	100.0%	13	81.3%	0	0.0%	12	100.0%	181	71.3%
利用可能日数	25		24		26		23		16		184		
平成28年度	18	72.0%	23	95.8%	14	53.8%	16	69.6%	16	100.0%	139	75.5%	
利用可能日数	22		25		24		24		23		296		
平成27年度	18	81.8%	13	52.0%	13	54.2%	11	45.8%	18	78.3%	217	73.3%	
演劇ホール	利用可能日数	16		17		22		22		22		269	
	令和6年度	16	100.0%	16	94.1%	12	54.5%	17	77.3%	17	77.3%	224	83.3%
	利用可能日数	12		0		0		0		15		209	
	令和5年度	12	100.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	14	93.3%	182	87.1%
	利用可能日数	21		23		19		21		26		291	
	令和4年度	19	90.5%	19	82.6%	10	52.6%	17	81.0%	19	73.1%	223	76.6%
	利用可能日数	22		24		22		26		27		293	
	令和3年度	13	59.1%	18	75.0%	12	54.5%	15	57.7%	21	77.8%	178	60.8%
	利用可能日数	0		0		0		0		10		146	
	令和2年度	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	7	70.0%	49	33.6%
	利用可能日数	24		19		22		24		26		291	
	令和元年度	22	91.7%	19	100.0%	19	86.4%	13	54.1%	0	0.0%	207	71.1%
	利用可能日数	26		21		18		3		17		147	
	平成30年度	21	80.8%	20	95.2%	15	83.3%	3	100.0%	14	82.4%	124	84.4%
	利用可能日数	28		15		16		0		0		242	
	平成29年度	22	78.6%	15	100.0%	14	87.5%	0	0.0%	0	0.0%	185	76.4%
利用可能日数	25		24		24		24		20		188		
平成28年度	20	80.0%	23	95.8%	18	75.0%	22	91.7%	20	100.0%	163	86.7%	
利用可能日数	24		25		18		25		23		285		
平成27年度	23	95.8%	22	88.0%	14	77.8%	19	76.0%	15	65.2%	225	78.9%	
大会議室	利用可能日数	25		23		25		25		25		310	
	令和6年度	12	48.0%	11	47.8%	9	36.0%	14	56.0%	17	68.0%	155	50.0%
	利用可能日数	12		0		0		0		15		217	
	令和5年度	9	75.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	6	40.0%	113	52.1%
	利用可能日数	22		24		19		20		26		303	
	令和4年度	17	77.3%	14	58.3%	5	26.3%	14	70.0%	13	50.0%	160	52.8%
	利用可能日数	25		24		24		25		26		299	
	令和3年度	8	32.0%	7	29.2%	5	20.8%	9	36.0%	14	53.8%	95	31.8%
	利用可能日数	0		0		0		0		12		176	
	令和2年度	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	1	8.3%	38	21.6%
	利用可能日数	27		21		25		27		27		318	
	令和元年度	22	81.5%	14	66.7%	13	52.0%	16	59.3%	0	0.0%	205	64.5%
	利用可能日数	26		22		22		22		27		310	
	平成30年度	18	69.2%	15	68.2%	9	40.9%	19	86.4%	20	74.1%	208	67.1%
	利用可能日数	28		23		25		26		29		325	
	平成29年度	9	32.1%	3	13.0%	1	4.0%	1	3.8%	14	48.3%	90	27.7%
利用可能日数	27		24		26		27		7		184		
平成28年度	19	70.4%	16	66.7%	9	34.6%	19	70.4%	6	85.7%	128	69.6%	
利用可能日数	25		25		23		26		22		312		
平成27年度	17	68.0%	13	52.0%	16	69.6%	17	65.4%	17	77.3%	226	72.4%	

□資料5 [利用者アンケート]

No.	公演情報			料金	手続	対応		舞台設備	次回利用	平均	
						フロア	ステージ				
1	日時	令和6年3月21日(木)	公演名	東海大学付属熊本星翔高校吹奏楽部 第33回定期演奏会	3	4	4	4	4	4	3.8
	会場	コンサートホール	主催者	東海大学付属熊本星翔高校吹奏楽部							
ご意見：今回も定期演奏会開催にご協力頂きありがとうございました。また今後ともよろしくお願いたします。											
2	日時	令和6年4月5日(金)	公演名	熊本高等専門学校 入学式	2	4	4	4	3	4	3.5
	会場	コンサートホール	主催者	熊本高等専門学校							
ご意見：当方の要望に応じてくださったり、式前・式後の相談についても丁寧にご対応下さりありがとうございました。また、都度都度、細部に気づいて下さり、お手伝いなど、ありがとうございました。次回の式典についても、どうぞよろしくお願いたします。											
3	日時	令和6年4月7日(日)	公演名	第21回お花見コンサート	—	4	4	4	4	4	4.0
	会場	コンサートホール	主催者	岩代千加子							
ご意見：大変気持ちよく利用させていただき、ありがとうございました。											
4	日時	令和6年4月28日(日)	公演名	シルバーエイジのピアノ教室 合同ミニコンサート	3	3	4	4	4	3	3.5
	会場	コンサートホール	主催者	(株) ピアノハープ社							
ご意見：外がうるさかった(補足：演劇ホールH3UDダンスの子供たちがエントランスで一時間騒いでいたもの。演劇ホールホワイエの担当者に静かにしてもらおう依頼した)。色々とお手伝い頂きありがとうございました。											
5	日時	令和6年5月26日(日)	公演名	熊本県合唱祭	3	4	4	4	4	4	3.8
	会場	コンサートホール	主催者	熊本県合唱連盟							
ご意見：いつもお世話になっています。事務局が変更になったことによりご迷惑をおかけしました。ご対応ありがとうございます。											
6	日時	令和6年6月16日(日)	公演名	熊本市中学校吹奏楽研究会 コンクール合同研究会	2	4	4	4	4	4	3.7
	会場	コンサートホール	主催者	熊本市中学校吹奏楽研究会							
ご意見：いつもお世話になっております。次回2月の吹奏楽祭もよろしくお願いたします。											
7	日時	令和6年7月2日(火)	公演名	学年別進路講演会	2	3	3	3	3	4	3.0
	会場	演劇ホール	主催者	熊本県立済々黌高等学校							
8	日時	令和6年8月17日(土)	公演名	八戸和男バリトンリサイタル	2	4	4	4	4	4	3.7
	会場	コンサートホール	主催者	八戸和男							
ご意見：担当の方をはじめ、スタッフの皆さんに親切な対応を頂きましたので、気持ちよく利用させていただきました。今後もお世話になりますので、どうぞよろしくお願申し上げます。											
9	日時	令和6年8月19日(月)	公演名	池松優美ピアノコンサート	1	4	4	4	4	4	3.5
	会場	コンサートホール	主催者	池松優美							
ご意見：コンサートホールステージ上を使わせて頂き誠にありがとうございました。これからも宜しくお願致します。											
10	日時	令和6年9月7日(土)	公演名	第35回グレンツェンピアノコンクール熊本予選	3	4	4	4	4	4	3.8
	会場	コンサートホール	主催者	グレンツェンピアノ研究会							

No.	公演情報			料金	手続	対応		舞台設備	次回利用	平均	
						フロア	ステージ				
11	日時	令和6年9月26日(木)	公演名	熊本大学附属小たのしい音楽会 (150周年)	2	4	4	4	4	4	3.7
	会場	コンサートホール	主催者	熊大教育学部附属小学校							
<p>ご意見： 子どもたちもご家族の方も関係者も含め、今回の150周年の音楽会はすごかったと笑顔でいわれていました。ゲストの赤池優さんも喜んでいらっしゃいました。この成功は県劇の皆様のおかげです。ありがとうございました。またよろしくお願ひします。</p>											
12	日時	令和6年10月16日(水)	公演名	令和6年度熊本商業高等学校 芸術鑑賞会	2	4	4	4	4	4	3.7
	会場	コンサートホール	主催者	熊本県立熊本商業高校							
<p>ご意見：丁寧に対応くださり、ありがとうございました。</p>											
13	日時	令和6年11月30日(土)	公演名	令和6年度つばめこども園生活発表会	2	3	3	3	3	3	2.8
	会場	演劇ホール	主催者	つばめこども園							
<p>ご意見： 毎年利用させていただきありがとうございます。大変使い勝手よく、スタッフの方々も親切に対応していただきました。心より感謝申し上げます。今後ともどうぞよろしくお願ひ致します。</p>											
14	日時	令和6年12月17日(火)	公演名	第49回全国高等学校総合文化祭 香川大会音楽専門部県代表選考会	2	4	4	4	4	4	3.7
	会場	コンサートホール	主催者	熊本県高等学校文化連盟音楽専門部							
<p>ご意見： 打合せから当日まで大変お世話になりました。スタッフの皆様のお陰で、生徒は気持ちよく演奏ができました。急な変更（イスやマイクの使用）にも対応していただき助かりました。今後共、どうぞよろしくお願ひいたします。</p>											
15	日時	令和7年1月17日(金)	公演名	第76回熊本県高等学校連合音楽会	3	4	4	4	4	4	3.8
	会場	コンサートホール	主催者	熊本県高等学校文化連盟 吹奏楽専門部							
<p>ご意見： 毎年大変お世話になっております。臨機応変な対応ありがとうございます。今後もよろしくお願ひします。</p>											
16	日時	令和7年2月20日(木)	公演名	酪農女性の集い	2	4	4	4	4	4	3.7
	会場	演劇ホール	主催者	らくのうマザーズ							
<p>ご意見：いつもお世話になっております。来年も開催予定ですので、引き続きよろしくお願ひいたします。</p>											
17	日時	令和7年3月18日(火)	公演名	第二高校SSH研究成果発表会	2	2	4	4	4	4	3.3
	会場	演劇ホール	主催者	熊本県立第二高校							
4月からの平均値				2.3	3.7	3.9	3.9	3.8	3.9	3.6	

□資料 6 [文化事業評価委員会議事録]

第 1 回文化事業評価委員会

開催日時：令和 6 年 10 月 10 日（木）10:00～11:30

開催場所：熊本県立劇場 特別会議室

出席者：（文化事業評価委員）山崎委員（進行）、高田委員、納富委員、葉山委員
 （オプザーバー）熊本県観光文化政策課 中島主事
 （事務局）宮尾理事長、吉永副館長、宮家局長、佐藤グループ長
 永野、中野、濱野、山崎、井田

《意見交換》

1. ホワイエサロンコンサート vol. 8「熊本県立劇場 40 周年記念カルテット」		説明：永野
山崎委員	来場者 178 名、入場者数としてはどうだったか？	
佐藤	完売公演で、歩留まりを含めると平均的な来場者数だった。	
高田委員	動画プロジェクトメンバーによる公演ということでチャレンジングな企画であっただろうと思う。家族で鑑賞したがアットホームな雰囲気良かった。ホワイエ企画が事業グループの挑戦できる場になっているのは面白い。終わった後、コーヒーでも飲もうと思ったが七彩が閉まっていたのが残念。反面、「光庭文庫」で休憩ができ雰囲気が素晴らしかった。劇場職員が工夫して創る劇場ならではの空間づくりはとてと良く、拡がると良いと思う。	
山崎委員	サロンコンサートの常連のような方は出てきているのか？	
中野	アンケートでホワイエサロンシリーズ何回目かという質問を設けており、複数回の来場者も増えていることから定着してきていると感じている。	
山崎委員	チラシ掲載は 3 曲…クラシックファンではない客層にも訴求できるポピュラー曲のプログラムが早めに決まり、チラシに掲載があるとより集客できたかもしれない。ターゲット層はファミリーだったか？	
佐藤	本件は一般向けの室内楽公演とした。	
山崎委員	ホワイエサロンコンサートで何名程度のアンサンブル演奏が可能か？	
佐藤	あまり大人数になると音が回ってしまう会場でもあり、ある程度限られた人数での演奏が望ましいと考えている。	
2. けんげきキッズプログラム「絵本のじかんだよ！」		説明：山崎
納富委員	出演者の雰囲気づくりが上手く、「騒いでも大丈夫」という優しい声掛けがあったのは良い。課題点としてエンジェルクッションの貸出・返却場所は一か所ではなく複数ある方が良いのではないか（別の入口から入場し、他の子どもがエンジェルクッションを使っているのを見てから探しに行く手間と、返却も中央入口のみで混雑するため）。また飲食禁止の注意をしながらも出演者がステージ上で飲食するのは子どもたちには混乱を招いたのではないかと。0 歳から入場可としたことは評価でき、小さい子どもにも会場に慣れてもらう目的は良い。未就学児向けに、何かもう一歩踏み込んだ方策が考えられると尚良いのではないかと。	
山崎委員	その点について何か具体的なアドバイスはあるか。	
納富委員	定義づけしてしまうとそれに当てはまらない人たちが出てきてしまう。障害の扱い（知的・身体・精神等）と同じく対応は難しいとは思いますが、今後色々と検討いただきたい。	

山崎委員	小さいお子さんが来る＝保護者が来る。県劇に来てもらう普及活動としての企画として、Eテレで活躍する俳優を呼んで未就学児の入場を可としたことは非常に効果があり良かったと思われる。入場者数も多かった。どういった人たちを、どの程度対象として公演をつくるかは検討いただくとして、普及を進める公演については今後も期待。
高田委員	市民会館公演の際、小林さんがあのキャパで開催するのは初めてと仰っていた。今回も 1,000 人規模の公演で、内容のブラッシュアップ等があったか？
佐藤	この演目については熊本が一番入場者が多く、満員の客席を見た演者が実施しない予定だった（遠くの客席から見づらい）マトリョーシカの演出をやってしまう等はあったが、出演者が楽しんでパフォーマンスする姿を見ていただくのもそれはそれで良かったと思う。今後お招きする際はカメラ撮影して投影する等、反省を活かしていきたい。0歳からの入場については今まで入場を制限していた未就学児を積極的に「入場可」とし、保護者の方に「劇場って子どもを連れてきて良いんだ」と思ってもらえる・これまで訴求できていなかった客層にアプローチする事業展開を行っている。
山崎委員	「0歳から可」という表現が一番分かり易いかもしれない。
佐藤	次年度も 0歳から入場可のコンサートを検討中。他館も同様の表現をしている所も多く、参考にしながら今後検討したい。
3. 劇場って楽しい！！	
説明：井田	
山崎委員	天草市民センターとの協働、またその運営から今後に活かせるよう学ぶ姿勢は素晴らしい。
高田委員	来場が大変なバギータイプの車椅子や、AED 機器を持参してまで来場されるお客様もいて、この事業へのニーズの高さ・渴望されている公演であることを感じる。ビッグ・アイ協力の下で事業を展開されているが、県劇ではノウハウも蓄積できておりビッグ・アイからも独自で開催できるだろうというお墨付きももらっており、そのノウハウを他館に展開できていることはまさに県劇の役割を果たしていると言える。収益性の観点ではまず黒字になる事業ではないが、それは仕方のない部分だろう。
山崎委員	助成金等の活用はできているか？
佐藤	障がいのある方にも鑑賞機会を提供する事業として、法改正等で国の助成も付くようになった。都道府県レベルでは未だの所も多い。潜在ニーズも高く、所管の自治体に政策提言の形で訴えることもできる事業であり、熊本県では劇場の仕様書にも明記している。
納富委員	県内の様々な所に普及できると良い。天草でアール・ブリュットの展覧会をしたこともあるが、近所の方がエプロン姿で見に来てくれるような身近さがあり、県劇もより身近に感じてもらえる工夫ができると良い。また、「劇場へようこそ」の冊子が配られていたが当日使われておらず、活用できると良いと思った。
山崎委員	天草と熊本の入場者の違いはあったか？
井田	熊本は土曜開催で、障がい者福祉施設の参加が多かった。反面、天草は日曜開催で、家族連れが多かったという違いはあった。
高田委員	アウトリーチができる／公演ができるアーティストの違いがあり、この事業ならではのアーティストも育っていくのだろうと感じている。技量・ノウハウのあるアーティストについて、今後発掘の展望などはどうか？
中野	このような社会包摂事業を見たアーティストが、適したプログラムを検討して公演を始めるケース（アンサンブル・リユネット等）もあり、社会包摂に取り組むアーティストも増えてきている。今後情報収集しながら発掘していきたい。

納富委員	開催日について、福祉サービス施設は土日休みのところも多く、平日の方が「日中活動」として施設の方が利用者を連れて来やすいと思う。
山崎委員	今回、熊大生は協力できたか？
佐藤	今回は公演を鑑賞し、ビッグ・アイからの研修を受けた。公演サポートは特になし。
山崎委員	障がい・福祉について学びたい学生も増えている。この事業は現場を学ぶとても良い機会になるため、熊大に呼びかけてスタッフとして興味がある学生が手伝うことで、学習の場としても機能させたい。
4. 県劇盆踊り 説明：濱野	
高田委員	自身の事業と重なり行けなかったが、今年プレゼンイベント（TED×Kumamoto2024）に登壇した際、コミュニティの中心としての太鼓の話をした上で、「盆踊りが最強」という結論に至った。輪になって踊る参加型のイベントについては、戦争など群集心理の統御に使われてしまった民族芸能の歴史の側面もあるが、昔から「人の心をそこに向かわせる」ことに有効であると立証されている。広場としての役割を果たしており素敵だと思う。
納富委員	夏祭りや、山鹿灯籠踊りのイメージとして踊る人は参加するが他は見るもの、という印象があった。誰でも踊りに加わるイベントが劇場で実施されているのは劇場を身近に感じてもらうことにも繋がり、良い取り組みと思う。
山崎委員	来場は校区以外からもあるか？車での来場者数も多いか？
山崎	アンケートはwebのみで回答数は限られるが、校区以外からの来場もある。車での来場者も多いが、満車にはなっていない。（アルコールの提供もある）
高田委員	準備・撤収など、お祭りでは地域を上げて皆でやるイメージもあるが、そのような取り組みは行っているか？劇場の地域との関わり方にも繋がる。
山崎	議題には上がったものの、地域の方に準備など協力してもらうことはしなかった。地域に根付くイベントとして、今後検討していきたい。
葉山委員	花畑広場でアフリカの盆踊りがあった。やはり輪になって踊る参加型のイベントは盛り上がる。
5. 第66回熊本県芸術文化祭オープニングステージ「ひこばえ」 説明：中野	
山崎委員	オーディションのエントリーはどの程度あったのか？
中野	20名程度。可否については関係者の協議もあり、最終的にほぼ全員が公演に参加した。
高田委員	先ず県劇の事業としてこの公演に取り組まれたことに感謝申し上げる。宇土の雨乞い大太鼓文化の掘り起こしは30数年前、「ふるさと創生1億円」事業で大太鼓を再生したことから始まった。物としては再生したものの活用方法について悩んでいたときに、県劇の当時の鈴木館長が中心となり伝統・伝承芸能に力を入れていただいたことで宇土の太鼓も生き永らえてきたと思っている。「宇土の大太鼓があるから宇土に住む」という若者もいる。熊本では高校でも太鼓は盛んで、団体は県内に60ほどあるが、太鼓を続けるか悩む若手も多い。その場を創る意味でも県劇が事業として太鼓公演を実現してくれたことに参加者も感謝しており、この事業で若い世代の太鼓打ちが繋がれたことも大きいと思っている。
納富委員	芸術を楽しむその先、普及につながることはとても大事で、続けることが大事だと思う。
葉山委員	街中ではびぶれす広場やホテル日航では太鼓が禁止されている。少しずつ復帰できるように出来たら良い。例えばアートプレックスなどで、子供が来る工夫ができると3世代が来場する。今後の事業でも見せ方を工夫し、集客が図れると良い。劇場で継続実施しているバックステージツアー等も面白い。
中野	前田氏作曲の楽曲は、より多くの太鼓打ちに広く普及して欲しいとの願いから著作権を放棄された。今後劇場からの発信も含め、この事業をきっかけに拡がると良い。

《下半期事業の説明》

- ・全国共同制作オペラ「ラ・ボエーム」
- ・ホワイエサロンコンサート vol. 9、vol. 10
- ・ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団
- ・舞台技術の基礎講座
- ・みんなで踊ろう！
- ・演奏家派遣アウトリーチ事業

《下半期事業に関する質疑応答》

高田委員	「舞台技術の基礎講座」を通して、熊本の舞台技術者増に繋がりそうな気配はあるか？
佐藤	講座後に舞台スタッフに進路相談をしたり、実際にアルバイトをしてみたり、専門学校に進むという学生もいた。少しずつ可能性のある若者が出てきている手応えはある。
山崎委員	みんなで踊ろう！は学生の参加は難しいか？
井田	一緒に踊ってもらうことはできる。前回参加の学生はアシスタントとしてよく動いてくれ、良い雰囲気づくりに一役買っていた。
葉山委員	アンサンブル・ホリゾンは珍しい現代音楽で面白い公演になるだろう。編成は？
佐藤	多くの種類の打楽器を多用する。編成としても面白いが、やはり集客に苦労しそうなため、委員の皆さまにも広報へのご協力をお願いしたい。

第2回文化事業評価委員会

開催日時：令和7年3月11日（火）10:00～11:30

開催場所：熊本県立劇場 特別会議室

出席者：（文化事業評価委員）田中委員（進行）、米野委員、高田委員、納富委員、葉山委員、村上委員、山崎委員

（オブザーバー）熊本県観光文化部観光文化政策課 中島主事

（事務局）姜館長、吉永副館長、宮家局長、金子舞台技術グループ長、佐藤事業グループ長、前川総務グループ副長、永野、中野、濱野、山崎、井田

《意見交換》

1. 全国共同制作オペラ プッチーニ歌劇「ラ・ボエーム」		説明：井田
山崎委員	3割の方が県外からいらっしまったということで、熊本県立劇場の存在感が大きく高まった事業になったのではないと思う。井上道義さんの最後のオペラということもあり、注目度の高い演目を熊本にもってきていただけたのは非常にありがたく、素晴らしいことだと思う。	
村上委員	公演終了後、帰っていく観客の皆さんのあちこちから泣いたという声が聞こえて、心に訴えるものをたくさんの方が受け取られたと感じた。また、「オペラを初めて見たけど感動した」という声もちらほら聞こえてきた。	
2. ホワイエサロンコンサート vol.9「Ensemble Horizonte」		説明：中野
米野委員	コンサートである側面とは別に、この会場で鑑賞したことで劇場型体験のような感覚を持った。演奏家が色々なところへ移動しながら演奏したり、四方から演奏が聞こえてくることで、自分たちもその演奏	

	<p>家の中に入れるような感覚で非常にワクワクした。素晴らしかった。</p> <p>存じ上げないアンサンブルだったが、素晴らしい技術を持つ方々で感動した。</p> <p>大学との連携ということで授業的な要素もあったのか、途中の解説が一般のコンサートを聞きにくる人に対してはわかりにくい部分が多かったり、少し長かったりしたように感じた。いつものホワイエサロンコンサートの時間帯を想定していたので、途中で中座してしまい申し訳なかったが、内容は素晴らしい試みで面白いと感じた。</p>
山崎委員	<p>まず、92名もの方に入場していただいたことに驚いた。熊本で現代音楽をこれだけの方に鑑賞していただいたことを非常にありがたく思う。</p> <p>現代音楽は敷居が高い演目のため、地方でこれだけ取り上げていただくのは難しかったのではないかと考えていたが、県劇に協力いただいて実現することができて本当に良かった。個人としては現代音楽に解説は必要と思うが、難しさ、わかりにくさがあったということで、これは今後の課題としたい。</p> <p>熊本大学にも稲森（安太己）さんという現代音楽の作曲家が教員として来ていることもあり、今後も現代音楽の良さを熊本県民にも知っていただくような努力をしていきたい。</p>
納富委員	<p>米野委員と山崎委員もおっしゃられたように、ホワイエの構造をうまく使われた導入部分でワクワクと始まっていく雰囲気が大変よかったなと思う。</p> <p>私が障害のある方々の芸術活動の支援をしているため、あの場に例えば障害のある方がいらっしゃった時、例えば急に声を上げたり、ちょっと音が聞こえにくい等の意見がでたりした場合に、どういった配慮ができていたのかというのを考えながら聞かせていただいた。</p>
田中委員	<p>県立劇場では、障害のある方を含めなるべく多様な方と一緒に常々配慮されていると思うが、納富委員のご質問というか、素朴な疑問に、どういう風な対応とか考えているのか。</p>
中野	<p>それぞれの事業ごと、コンサートごとに鑑賞サポートという形で何かしら入れたいが追いついていない状況。今回のような現代音楽は聞き慣れない音や微弱な音が多く、観客の方も音に敏感になっていることもあり、(そのような公演に)お客様が来た場合、どういう対応ができるかということろまでは、正直考えられていなかった。</p> <p>納富委員からのご質問をもとに、事業グループ内や劇場内でも、対応を改めて考えたい。障害を持った方向けの事業を継続していることから、今後当事者が来場されることは十分に考えられるため、検討していきたいと思う。</p>
佐藤	<p>補足として、県立劇場では障害のある方に向けた事業を行っていく中で、お迎えすることを繰り返し学んできている部分もあり、鑑賞サポートを入れずとも、例えば声を上げられるお客様がいたらどうするかというのは、職員の方で全く想定外のものとして受け取らない土壌ができていくように思う。</p> <p>もちろん鑑賞サポートを準備するコストをかけることも必要ではあるが、受け止める職員の資質を上げていくことが1番大事だと考えている。</p>
田中委員	<p>今、多様性は重要だと言われていて、大学でも当たり前のように配慮すべき時代になっている。もちろん当事者の方が一番大変だと思うが、それを受け入れる側の、公共に携わる人間のマナー、一緒にいる人を大事にしようのような、すごく簡単なことでもいいので、そういったことを日頃から考えるだけでもだいぶ違うと思う。もちろん新年度になってまた研修があるとは思いますが、研修だけでなく、今説明していただいたように、365日大切なことだと考えて日々を過ごすことが大事。こういったことも指摘していただかないと忘れてしまうので、(委員の皆さんに)ぜひご指摘いただければと思う。</p>

葉山委員	大変良かった。まず楽器の編成、独特で見たことがない。そして取り扱っている時間の幅。現代音楽というと近代だと思いが、古楽の要素のサウンドもあるし、いわゆるクラシック音楽という思い込みをもっているとよく分からない。が、よく分からないということが大事なので、あまり解説しなかったのではないかと。皆さんのおっしゃっているように、空間の使い方をはじめ非常に面白い演出をしていて、あれはリーダーの方が決めた？
中野	はい。
葉山委員	前衛芸術というかモダンミュージックの切り口がすごく鋭く出ていてよかった。そしてサウンドの幅。例えばかすかに振動する音や、音と音の間の音、そういう楽音と騒音の間の音もうまく使っていたので大変エキサイトした。
高田委員	ホワイエサロンコンサートのすごくチャレンジングな要素というか、実験場としての活用としてとても良い事業だった。ドイツの助成金や大学と連携することで、(費用を)抑えて実施するという、ホワイエサロンコンサートとしてすごく適正で、こういうのをやってほしかったと強く感じた企画だった。
田中委員	熊本大学と県劇、近いところにあって協働し、1粒で2度おいしいというか、きっといい場だったのだろうという風に思った。 皆さんのお話を聞いていてちょっと思い出したが、東日本大震災後のゴールデンウィークに陸前高田市に行ったら、全く音がしなかった。全く音がしない世界を体験したからこそ、音があることの良さを感じられる。僕の方野はサウンドスケープ(音風景)というが、納富委員のご指摘でその大事さを改めて感じさせていただいた。今度、熊本大学は東京藝術大学と包括連携協定を結ぶことになり、その担当として文化的処方を実践することになった。(藝大学長の)日比野さんはずっと「考えるな、感じろ」とおっしゃっていて、葉山委員がおっしゃったように考えてもわからないことを嫌がるのではなく、その分かりにくい部分を大切に。そこが文化とか芸術に重要になってくるのかな。そういう誰にでも感じることはできるということを大事にしていきたい。
3. ドイツ・カンマーフィルハーモニー管弦楽団 説明：中野	
田中委員	(集客が目標の)6割にとどまった要因の方の分析はされているのか。時期が悪かったとか、値段高かったとか、そういうの。
中野	チケットの価格に関しては他の県や首都圏と比べると非常に安い、熊本県内の公演で考えると高額に見える。そういったところ(チケットの安さ)を本来もう少し打ち出していくべきだったと感じている。また、ピアニストのラファウ・ブレハッチの人気の非常に高いので、ピアノファンへの訴求というところをもっと打ち出すべきだったが、同時期に他のピアノコンサートだったり、オーケストラ公演だったりとかいろんなものが重なっているということもあり、それに比べるとどうしても見劣りがしてしまったかと。 ピアノソロリサイタルの方がもしかするとお客様が入ったかもしれないと、色々考えるとところはある。
田中委員	そこが大事。もう結果は仕方がないので、なぜそうなったのか、ということ考えた方がいい。本当はそうじゃなかったのかもしれないのに安易に手段の方に走ってしまうので。問題点を多角的に考えてもらう方がいい。公演日の12月の年末の週末というのものもあるかもしれないし、その後もぜひ考えていただければ。
米野委員	他県との価格比較は、県民の人たちにはなかなか伝わりづらいのでは。ラ・ボエームの価格と比較しても、1万2,000円で6割であれば、9,000円で8割を目指した方がいい気がする。また、ピアニストが

	<p>あれだけ人気の方なのにソロ 1 曲だけだったので、それを目的にしてこられた人がいたとしたら不満だったのかもしれない。演奏時間、終演時間のところで不満足の方が 9.3%は他のものに比べると高く、それが影響しているのかと、あとは価格の問題だと感じた。</p> <p>演奏そのものは 2 部構成のような感じで非常に贅沢だった。チケットも確かに安価ではあるが、県立劇場では同様の素晴らしいコンサートを非常に安く鑑賞できているので、観客の意識が 1 万円超えると高いと感じてしまうのかもしれない。</p>
佐藤	<p>オーケストラにはそれぞれレギュレーションがあり、劇場の要望でプログラムをどうにかできるものではないという事情がある。価格問題については、逆に熊本は安くやりすぎている。他県では 2 万円台後半の海外オーケストラでも、県立劇場ではチケット料金が 1 万円を切るという公演がずっと長く続いていた。収益率の面でもこのままずっと続けていくことは難しく、熊本にオーケストラが呼べない事態を防ぐためにもデフレ状態だったものを少しずつ戻していかなくてはいけない。</p> <p>アジアから入国するツアーに組み込んでもらい、できるだけ移動にかかるコストを削減できるよう努力したり、助成金や積立準備資金を使ったりという工夫はしているものの、やはりお客様にもある程度は負担していただく必要がある。確かに価格差は他県と比較しないとわからない部分があるので、そこは理解していただく工夫が必要だと感じている。</p> <p>ボエームが成功したのは、井上道義の最後のオペラが熊本で見られるという特色を打ち出したことが券売に繋がったもので、魅力を伝えられてないというのが私共の弱いところ。</p>
葉山委員	公演経費には旅代は含まれるのか。
佐藤	含まれる。
葉山委員	チケットの価格設定の根拠は？
佐藤	公演料や劇場会場の使用料、広報費すべてトータルすると、全体経費が 2,300 万～2,400 万くらいかかる。それを捻出するために、チケット販売枚数などを考えて決めている。
葉山委員	オーケストラのような大掛かりな団体を招聘して採算を取るのには本当に大変なこと。県なら県の補助金が確定で出るという仕組みが必要だと思う。
佐藤	国の助成金を申請しているが取れないケースもある。
米野委員	6 割程度の入りで 100 名が招待者ということで、赤字でいうとどれくらいの金額で、それを他の何かで補わなくてはいけなくて、それによって県立劇場でやりたかったことができなくなることもあるのか。
佐藤	<p>赤字をほかで補う必要はあるが、県立劇場で当初計画していた事業ができなくなることはない。まず、子供招待の部分は劇場のこれまで積み立ててきた資金から賄っており、招待分も入場料収入として入ってくる。結果的に、マイナスは他の事業で上げている黒字から補填するという形になる。例えば、ラ・ボエームは想定よりは収入があったため、そういったところをかき集めているイメージ。</p> <p>一番大きなところは国の助成金が取れるか取れないかによる。令和 7 年度の助成金だったら、令和 7 年の 3 月 31 日に採択通知が来る。それが採れないと非常にリスクなため、そこを見込んで予算を立て、国の助成金への依存比率をできるだけ減らすようにしている。</p>
米野委員	公共の施設のため、可能かどうかは分からないが、企業とかを巻き込むことはできるのか。
佐藤	<p>協賛金をいただくことは国からも推奨されているが、これが「〇〇プレゼンツ」のような冠協賛になると、企業の PR 公演ととられ、公共性が下がり国の助成が使えなくなってしまう。そのためそこまでにならない程度の協賛金や告知をいただくか、大きな協賛であれば国からの助成をいただかずにやるか、どちらを選ぶかということになる。</p>

米野委員	企業への営業的なものはされているのか。
佐藤	営業は実施している。例えば、5/31の台湾フィルハーモニックではTSMCから140席購入いただく予定。
田中委員	県立劇場の役割は、深めると広めるの両方あると思うが、今は深める方向で、その最先端に行くためのマネジメントが必要になっている。それと同時に公共性の面、誰もがアクセスできることも大事だと考えている。なんとなく熊本で演奏すると気分がいいとか、街が元気だとか、そういった印象を受ける。お金は大事だけどそれ以外の、劇場そのものの価値を高めていくこともやっていかなければならない。県劇に来る時はちょっと気分が上がる的な、そういった場作りはやっぱり大事になってくると思う。熱心にアートマネジメントすることも大事ではあるけれど、場作りのような、1人1人ができることも県劇ならではのアピール方法だと思うので。やり続けてほしい。
4. 舞台技術の基礎講座 説明：山崎	
田中委員	今年は行けなかったが、去年見て非常にいい取り組みだと感じた。大変面白かった。
高田委員	今回参加いただいた18名の方は、舞台の仕事に興味を持ってらっしゃる方なのか。
山崎	レベルは様々だが、皆本当に興味があって参加している。高校卒業後に舞台技術の専門学校に行くことが決まっている参加者もいて、入学前に少しでも勉強したくて参加したようだ。リピーターは2人いた。本当に職業として考えている子と、舞台が好きで興味があるから参加した子。それぞれいる印象。
高田委員	中学生・高校生たちで、舞台の仕事に興味を持ってくれる子どもたちの発掘が大切。学校の部活やそういった舞台に接する機会が多い、例えば吹奏楽部とかダンス部とか色々あるが、そういったジャンルの生徒たちへの声かけはどうしたのか。
山崎	熊本県の高校文化連盟の演劇部会や吹奏楽連盟等に直接依頼した。今までの傾向として吹奏楽よりも演劇部の方が舞台に興味のある学生が多いため、演劇関係を中心に広報をかけた。
高田委員	講座では劇場の舞台スタッフが表方になり講師を務めるため人に伝えるスキルが必要になる。先日娘と妻と一緒に「行け！劇場探検隊」に参加した際、県立劇場舞台職員が演者になり、裏方のスタッフも一緒になって楽しんでいる様子が見えて良かった。やっぱりそこで働いている職員が楽しそうだからこそ舞台という仕事が魅力的に映ると思うので、こういった事業はとても大切。
金子	県内の舞台技術者の不足は深刻で、仕事が回らず県外から技術者を呼んでいる状況。しかし、県外も熊本と同様に人が不足しているという話を聞いており、全国的にも舞台技術者の確保は急務で、能動的に動く必要があることは日々感じている。本事業を継続していくことで人材の確保につなげられるように努力したい。
田中委員	去年、ジャズの公演（芸文祭）に、違う学校の生徒らが劇場に集まって、楽しそうに参加する姿に胸を打たれた。その中に裏方、舞台の方が含まれて、（プレイヤーも舞台も）一緒に作るということの中高生で体験できることがとても大事。県劇がそういう学びの場になるといい。 県劇でやるのも大事だが、地方のホールや文化会館でもこういう取り組みをもっとやった方がいい。公的資金を投入して人材育成をしないと、舞台技術グループ長からもあったように、今は間に合っても10年後はギリギリになっていると思う。演じる人だけでなく、支える人がいてこそ。舞台の技術は郡部では全然流儀が違うことはままあることだと思うので、それぞれの地域でそれぞれの人材が育っていくことが逆に熊本の強み。熊本だからできる人材育成システムを作っていけないといけない。 現在、高校のあり方検討会の副会長をしているが、各高校の魅力化の中に文化芸術も入っていると考える。例えば球磨中央高校の建築学科の皆さんが宮大工の勉強をされているが、そういうものは売りになっていくと思う。

村上委員	この講座の参加者を一人も逃がさないという感覚で、継続プログラムや本当の現場を見ても良い機会があると、劇場のファンになったり新たな人間関係を築けたりするかもしれない。大きなイベントではないが、対象者を限った特別なイベントの実施可能性はあるのか。
佐藤	芸文祭オープニングステージ等で受け入れたこともあるが、最近は大掛かりな仕込みがある舞台が少なく、受け入れを停止していた。舞台裏は危険が伴うため、舞台職員が常に傍にいないといけないが、人手不足の中でその対応ができるかも含めて判断する必要がある。ただ、何か機会を作る努力はしなくてはいけないと考えている。
田中委員	グレーな部分だが、やっぱりそういうコネを持てる点で、東京より熊本の方にチャンスがあって、そこを大事にした方がいいと思う。長い目を見て、ぜひ心に留めていてもらえたらと思う。
5. みんなで踊ろう！ 説明：中野	
納富委員	こういったイベントは分野が限られてしまうため、広報を頑張らないとなかなか集客できないが、想像以上に参加者が多く驚いた。それだけ需要があると感じた。また、終了後に参加者のご家族同士がコミュニケーションを取っていて、事業以上のものが生まれているという印象があった。評価レポートにも書いたが、最後が駆け足になった印象があったため、タイムキーパーを別に設けた方がいいと感じた。今後の予定もしっかり組み立てて考えられているようなので、熊本独自の事業として今後普及していくことを期待したい。
高田委員	「みんなで踊ろう」というタイトルだが、主な対象者はやはりその障害を持った当事者と支援者がメインだった。だからこそ、なんとなく踊りたいなって思ったおじさんが参加するというところに、実は価値があるのではないかと参加してみて感じた。 先程のホワイエサロンコンサートにあった障害を持った方への対応をどうするのかという視点と重なる部分もあると思うが、実際入ってみて本当に楽しかった。その価値っていうものが当たり前になっていくことが大切だと感じた。 課題点としては、アーティストの育成には年1回の事業の中で研修というのは絶対的な数が少ないと感じる。今回アシスタントで入ったダンサーは、よく私も一緒に事業を実施しているが、正直彼らはもっと学べるはず。 例えば、今回のプログラムで市町村や、(児童)養護施設にダンサーを派遣するような取り組みがあっても良いのでは。また、(協力の)ビッグ・アイでは、定期的にダンスを作って、それを1つの作品に仕上げる事業をしている。例えば来年度の事業一覧にある芸文祭のオープニングステージとかで、そういった子たちも受け入れられるという部分があると、より面白いのではないかと。 法律が変わったことで、障害者とのかかわり方も変わってきた。それを受けての評価軸も変わる。その評価軸を、県立劇場を通して県の仕様書の中に実感を持った形で提案していくことも、この委員会の大きな役割だと感じた。
田中委員	委員も参加者になったことはとても大事だと思う。最近なんでもかんでも公共サービスと言われてしまい、お金や対価を払ったらお客さんになってしまうということが、少し残念というか、対話ももちろんだが同じ方向を向き、いいものを一緒に作っていくことが、舞台とか文化の大事なところで、実際踊るのはさすが高田委員だと思った。
高田委員	実は米野委員も一緒に踊っていた。
米野委員	今回初めて参加させていただいた。高田委員が名前を付けて参加している姿を見て「どういうこと？」と思いつつも、障害をもった参加者の兄弟が少し寂しそうにしている、以前、ご近所で集まったりする

	<p>と、子供がたくさんいて大変そうなお母さんには「ちょっと見ておきましょうか」って声かけていたような感覚で、なんとなくその子と目を合わせながら思わず「行こうか」と声をかけた後は、いつのまにか私自身も楽しく1時間遊ばせていただいた感覚だった。</p> <p>ざっくりとしたプログラムでやるからこそ参加者も緊張しなくて、参加しなくなったら参加するし、嫌になったらまた休むということができていた気がする。奥行きがあって、懐の広い試みを準備されるのは逆に大変だと思うが、きっちり決めずに色々なことがあってもいいというスタンスで実施されているのだと思った。先ほどもあったが、劇場以外の（児童）養護施設などに行くと、そこの先生方の学びがあったり、参加者の方々にとってもさらに学びの場所になったりすると思う。素晴らしい取り組み。</p>
田中委員	<p>誰もが参加できるということは本当に大事なことで、熊本だからできることとして高めていただきたい。一点気になるのは、アシスタントの葉山さんのこと。彼はなんでもできる人だからこそ、それに見合った報酬を支払う必要がある。今後も葉山さんが熊本のためにやってくれる善意をちゃんとお金で返せるような、そういうマネジメントをしてもらいたい。</p> <p>人材育成の部分で、県立劇場で何かしらの助成金をとり、高校生や大学生を巻き込むようなプログラムをぜひやって欲しい。熊本大学と商店街の皆さんとで『町の学校』という取り組みを行っているが、その中に創作を絡ませるようなことができればいい。</p>
6. ホワイエサロンコンサート vol.10「カルテット・スピリタス」 説明：山崎	
田中委員	演奏中、スピリタスの皆さんもパフォーマンス以上に楽しそうで、会場とも一体化していた。
高田委員	<p>さすがはスピリタスといった感じ。一般財団法人地域創造の登録アーティストなのでアウトリーチ的な活動に慣れていることは承知していたが、今回プログラムの中で、サクソフォンの歴史、成立から進化まで触れていた。見に来ていた学生にとっても大変勉強になったのではないかと。</p> <p>課題点として、今回は立奏されていたが、譜面台が顔を隠してしまっていた。この部分は制作側とアーティストが戦うところと思うが、お客さん目線に立ってアーティストに伝えられたいのかなど。</p>
佐藤	譜面台の高さは演奏者にとって非常にデリケートな部分になるので、プレイに影響がない範囲でお願いしていきたいと思う。
高田委員	<p>また、時期の問題かと思うが、西日は少し課題だと感じた。</p> <p>スターウォーズのテーマを演奏している際に光が差し込んできて、演出と考えればとても素敵だったが、もう少し晴れ間が多かったら眩しすぎたように思う。会場にカーテンはあるのか。</p>
佐藤	完全に覆うことはできないがブラインドはあるので、時期や時間帯に合わせて使用していきたい。
7. 演奏家派遣アウトリーチ事業（益城町） 説明：永野	
山崎委員	演奏家の方がいらっしゃるというのは、子供たちにとって非日常な時間・空間。だからこそ、もっと生の演奏を感じることを大事にして欲しい。そのためには音楽の授業の延長ではない部分を出して、子どもたちの経験を引き出しながら、音と子どもたちを繋いでいく部分をもう少し検討いただきたい。
佐藤	<p>山崎先生からのご指摘は本当にその通りだと感じた。その一方で、（アーティストが）台本に縛られないようにするのも非常に大事で、プログラムをどこまで自分の中で落とし込んで話をするかが課題になる。この言葉を言わなきゃ、この言葉は言ってはならないというのが頭に張り付くと、恐らく演奏にも影響してしまう。アウトリーチプログラムを完全に自分のものにするのが非常に大切ではないか。</p> <p>今年度、登録アーティストの皆さん、特にトランペットの木原さんは相当数のアウトリーチを実践しており、本人も子供たちの様子が見えるようになってきたと話していた。難しいオーダーにはなると思うが来年度は先生のご指摘をプログラムに反映していきたい。</p>

田中委員	アウトリーチってすごく大事で、演奏者の学びにもなると思っているが、どうしても数の評価になってしまって数をたくさんこなせばいいという風になりがち。数だけでなく、質の評価を、山崎先生のようなプロに見ていただけるといい。そういう評価システムは作っていかないといけない。演奏家を何年か毎にローテーションしていくとか、そういうアドバンテージのようなものがあったらいいと思った。
村上委員	(トランペットの)木原さん、とてもよかった。同時に学校や子供たちの雰囲気がとてもよかった。クイズに間違っても喜んでいて。山崎先生のレポートに、間違わないような問題を出すとお書きになっていたが、私は間違う問題を出した方が面白いと思った。木原さんと子供たちの間に両方楽しんでいる様子が、私が行った時はとても伝わっていたので、木原さん自身の学びにももちろんなっていると感じた。
高田委員	宇土市民会館で実際にアウトリーチの受け入れ側として実施した。これは自分の反省になるが、午前中の2限目と4限目にアウトリーチのコマを入れてしまった。しかも木原さんのプログラムはかなりの労力を使う演目だったにも関わらず、インターバルを1コマでやってもらい、結構大変だったと思う。その後、県劇さんとフィードバックして、今後の改善点ややり方を打ち合わせた。このような機会は現場の地方の職員、地方の法人にとってすごく大きな学びの場だと思う。そして、12月にもう一度木原さんに演奏していただいたところ、彼女も内容をブラッシュアップしていて、OJTというか、現場に行くことでちゃんと育っていることを強く感じた。また来年、期待している。
田中委員	気になるのは先生の負担。今、本当に小学校も中学校も高校も先生の負担がやっぱり大きく、先生がアウトリーチをやるというのも少し違うと思う。そこを工夫するのがノウハウもあるアーティストだと思う。今の子どもたちは言葉にすることが苦手で、前ではなく横を向いて喋る。前を向いてくれない。ただ、文化芸術によって開く人間もいると思うのでそこに期待したい。
山崎委員	学級とか学校によっては、間違えることは全然問題じゃないというところもあるが、基本的に学校は、間違えてはいけないと刷り込んでいく。だからこそ多くの子どもたちは、田中委員もおっしゃったように友達の様子や自分が間違えてないかどうかを気にしてしまう。そんな子どもたちや学級が多いことも事実としてある。事前にどういう学級なのかというのが分かれば、間違える選択肢を入れてもいいとは思いますが、そこから分からない場合はリスクを減らすためクイズのあり方は検討いただきたい。
田中委員	今10人に3人は学びに何らかの引っかかりがある子たちがいる。そういった子どもたちが席につけるように尽力するのが先生の仕事になってしまっていて、先生本来の仕事ができてないという問題は大きい。そういう状況の中、アウトリーチを通して1人でも2人でも心開くことができればと思うので、そういうつもりでやっていって欲しい。

《令和7年度事業の説明》

- ・シアターアジア（オープニングシンポジウム、台湾フィルハーモニック、宇宙船イン・ビトウイーン号の窓、ホワイエ薪能）
- ・九州交響楽団連携プログラム（0歳からのオーケストラ、熊本特別演奏会）
- ・第67回熊本県芸術文化祭オープニングステージ「はじまり はじまり～県劇舞台づくり学校～」
- ・避難訓練コンサート
- ・人材育成プログラム（劇場人育成プログラム、舞台技術の基礎講座）